

令和6年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【大砂土小学校】

⑥	次年度への課題と授業改善策
知識・技能	
思考・判断・表現	

①	今年度の課題と授業改善策	
	学習上・指導上の課題	授業改善策【評価方法】
知識・技能	<p><学習上の課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な知識・技能に関する学習では、全ての学年で概ねよく定着が図られている。 ・3・4年生の国語「我が国の言語文化に関する事項」に関する領域で、やや課題がみられる。 ・二極化を示す傾向にある。 	<p>⇒</p> <p>中学年に至るまでの低学年段階からの確実な知識・技能の定着を図るために、ドリルパークやスタディサプリなどのデジタルコンテンツを活用した授業改善をさらに進めていく。また、学習履歴などを活用して、個に応じた指導の充実を図り、学力の二極化に対応できるようにしていく。</p>
思考・判断・表現	<p><学習上の課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・知識・技能を生かした課題解決では、学年が上がるにつれて上昇する傾向にある。 ・算数「データの活用」に関する領域で、やや課題がみられる。 	<p>⇒</p> <p>1人1台端末を生かした授業を効果的に展開し、ICTを活用した学び合いを通して思考力・判断力を育成する。また、高学年においては、教科担任制により教科の専門性を高めた指導力を教師に身に付けさせ、児童の多様な考えを生かした指導方法の工夫改善に取り組むことで、思考力・判断力・表現力の育成を図る。</p>

⑤	評価(※)	調査結果 授業改善策の達成状況
知識・技能		<p>①結果分析(管理職・学年主任等)</p> <p>②詳細分析(学年・教科担当)</p> <p>③分析共有(児童生徒の実態把握)</p> <p>職員会議・校内研修等</p>
思考・判断・表現		

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	<p>国語及び算数とも全国平均を大きく上回っている。しかし、選択式の問題にもかかわらず、全国の無回答率に比べ、本校の無回答率が高い。また、昨年度も課題であった「我が国の言語文化に関する事項」が全国平均正答率に比べると、「+3、0P」と3つの事項では伸び率が低い。文章を書く目的や意図を確認して伝えたいことを明確にしたり、事実が考えを裏付けるものとなっているかどうかを授業時に確認したりする必要がある。さらに、伝えたいことがより明確に書き表せるようにするために、教師が観点を明確に示し、児童が書いた文章を自身で読み返したり友達と確かめ合ったりする活動を重視していきたい。算数科については、高い正答率を維持しており、意欲も高い。この状態を維持できるように、引き続き子どもも主体的に学ぶような授業を今後も継続していく。</p>	
思考・判断・表現	<p>国語科の「思考・判断・表現」では、「自分の考えが伝わるように表現を工夫することができるか」の問いについて、唯一課題が残った。授業では、話し手の目的や意図、聞き手の求めていることに応じて、話す際の材料を集め、分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を考えることが大切であり、学習活動を振り返る際などに、聞き手が知りたいことを想定して内容を検討し、表現することも効果的だと考える。</p>	

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	
思考・判断・表現	

③	中間期報告	中間期見直し	
	評価(※)	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	B	ほぼ達成。教師は学びの場をデザインすることを意識し、子ども達が教師に指示された同じ使い方をするのはなく、子ども自身が学び取る授業改善を図る。また、個別最適な学びにおいては、対話や振り返りの時間を十分に取ることを実施する。	変更なし+左記による
思考・判断・表現	B	ほぼ達成。今後は協働で学習する必要性を一段階レベルアップしていく。協働で思考する際に、考えをクラウド上で可視化し整理したり、比較したりする。また、クラウド上以外に、成果物をアウトプットする。	変更なし+左記による

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)